

BRICs の成長 -- 世界の多様性の増大へ (巻頭エッセイ)

著者	藤田 昌久
権利	Copyrights 日本貿易振興機構 (ジェトロ) アジア経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	アジ研ワールド・トレンド
巻	140
ページ	1-1
発行年	2007-05
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00005236

BRICSの成長—世界の多様性の増大へ

藤田昌久

この二月にマラウイとケニアを訪問した。一〇日間の短い旅であったが、この東アフリカにおいても、欧米目を中核とした世界経済のグローバル化の波とともに、BRICS（ブラジル、ロシア、インド、中国）に代表される新興経済大国を起源とする新たな波が輻輳してきているのを実感した。

まず、イギリスの旧植民地時代にマラウイの首都であったブランタイヤに一泊し、近くの農村において日本の協力によって行われている「一村一品運動」の現場を幾つか見学した。その後、独立後のマラウイの首都であるリロングウェに向けて、ブラジルのサンバを思わせるアフリカ音楽をラジオで聴きながら、車で疾走した。リロングウェでは韓国人経営の 코리아・ガーデンなるホテルに泊まり、翌日から近くの農村でさらに幾つかの「一村一品運動」の現場を見学した。

ケニアのナイロビ空港からホテルに行く途中のタクシーの運転手との会話で、「我々は欧米目とも引き続き仲良くしたいが、中国やインドと友達になるのを邪魔しないでくれ」といわれたのが印象に残った。中国のアフリカ外交が功を奏しているのかもしれない。また、ナイロビの商店の多くはインド系である。翌日、ナイロビ郊外の高台にあるバラを中心とする花卉栽培の農場を見学した。高原の年間一定の好気候を利用して、コンピュータ管理の温室で栽培された花卉は、飛行機でヨーロッパに輸出されている。また、ナイロビ近くの二〇〇〇人の労働者を持つ最新式の衣服工場からは、輸入規制の少ない米国へ製品が

送られている。その工場の経営者から、「ODAとしてお金をくれるのもうやめてくれ。その代わりに、自国の貿易の門戸を、途上国にもっと大きく開いてくれ」といわれた。

今アフリカを含めて世界の熱い目がBRICSに向いている。近年のBRICSの経済の躍進ぶりには目ざましいものがあり、貿易、投資、援助などの様々な視点から、将来のさらなる発展が期待されている。いずれの国も膨大な「資源」を有している。中国とインドは膨大な労働力を、ロシアとブラジルは膨大な天然資源を。その豊富な資源をもとにそれぞれ近年急速な経済成長を続けてきているが、同時に、所得格差、インフラ不足や環境破壊などの様々な問題も増大してきており、将来は必ずしも樂觀できない。しかし、それぞれの国が成長を支える様々な制度の構築とその持続的な革新に成功すれば、今世紀の世界経済において新たな「巨人」として発展していくと期待される。さらに、私個人としては、BRICSの発展が世界にもたらすものとしては、世界経済のさらなる多核化とともに、広い意味での文化ないし文明の多様性への貢献を重視したい。数千年の独自の文明の歴史を持つ中国とインドは言うに及ばず、トルストイとドストエフスキーを生んだロシア、サンバのリズムに代表される太陽の国ブラジル。これらBRICSを含む新興国が世界の主役に加わることにより、今世紀における世界の発展は、多様性に富んだより豊かなものになると期待される。

（ふじた まさひさ／アジア経済研究所長）